

「桜の樹」 ニュースレター vol 25

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2023.8

第49回岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 4周年記念講演&カフェ

7月8日(土) おかげさまで4周年節目のときを皆さんと迎えることができました。当日は、樋野興夫先生のご講演の後、いつものようにカフェをし、最後に田島玲子さんによる「音楽の処方箋」のプレゼントがありました。

私は、肺がんで片肺になってから26年、乳がんで治療ができなくなって5年になりますが、がん哲学外来に出会うまでに随分時間を要してしまいました。しかし、樋野先生のひとことではじめた巣鴨のカフェという場で、たくさんの出会いをいただき、関わってくださった皆さんと紡いできた時間は、私の「希望」となりました。今まで関わって下さったすべての皆さまに感謝申し上げます。5年目もこの頂いた「希望」をひとりでも多くの方に届けていけるよう持てる力を尽くしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。



私の絵日記

ミニオン

今はスマホで簡単に写真ができてしまいます。進化したなど。

昔を振り返ると。小学校のロッカーにカメラを入れていつもシャッターをおせる状態に。中学に入ると現像室(暗室)を自宅に作り、一枚の写真を大切に時間かけて。色々なワザを使います。カラー写真はプロの世界でした。自分は白黒写真で勝負です。

今あらためてスマホ写真が簡単だけれど、奥が深いなーと。コツコツと始めたインスタがフォロワーさん、1000人を超えました。利益関係ない楽しみなのです

インスタが私の絵日記なのです。どこでどの角度で。何を考えながら。いつ頃など考えて振り返る自己満足の世界なのです。



暑期中 生活されていると思います。

私はちょっと時間が空いたので 中野のブロードウェイで キャラクター探して遊んでいます。

これが 小さな楽しみなんです。

甘い物が食べたくて ミスタードーナツ 久しぶりに入ってしまった。ふとるのはわかっているんだけど。
ミニオンより



上野不忍池

巣鴨カフェ、4周年おめでとうございます! こじこじ

巣鴨カフェの4周年記念講演会に先日伺うことができました。私たちのカフェ(松戸常盤平がんカフェ)も巣鴨カフェと2か月違いでスタートしたカフェです。4年前にお互いスタートして、それから4年経ったのか~としみじみ思いました。そして、常盤平カフェで、山本さんと初めてお会いした時を思い出しました。山本さんは、いつも常盤平カフェの応援団でいてくれます。本当に感謝です。巣鴨カフェの講演会は、山本さんの愛と希望がたっぷりでした。そして、心からのおもてなしに感動しました。4年間、カフェを続けることは、嬉しいことも多いけれど、大変なこと、悩むこともたくさんあったことと思います。わたしは、山本さんの存在があったから、カフェを続けることができました。ありがとうございます。これからも、お互い、必要な方のために開かれ続けるカフェでありたいですね。巣鴨のカフェを応援しています

こじこじさん、ありがとうございます!こちらこそ、同時期にカフェを始めたこじこじさんとの出会いに感謝しています。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

ミニオンは、はじめてお会いした時に、インスタグラムのお話をしたことを覚えています。インスタ以外でもずっと、お写真やコメント、原稿を寄せてくださり、私たちが見ることの出来ない世界を感じさせてくださり、励まし続けてくださっている巣鴨開所当時から影のスタッフさんです! 感謝! かえるより

一緒にいる時間

凧ちゃん

先日、長男の中学生時代の同級生のママ友、鴨さん(仮)から連絡がありました。久しぶりにお茶でも飲みながらおしゃべりしましょうとの事。後日、近所のファミレスで待ち合わせをしました。

会うのは半年ぶりでした。息子さんが5月に結婚式を挙げたそうで、鴨さんは嬉しそうでした。写真も見せてくれました。息子さんと鴨さんとのツーショットは微笑ましく、2人の笑顔は最高でした。彼女が前々から息子さんの結婚を望んでいたことを知っていたので、心から嬉しく思いました。

一年前、私のガン治療について、鴨さんに話をしました。コロナ禍でなかなか会えず、久しぶりに一緒にいられる時間でした。彼女は、淡々と私の話を聞いてくれました。今回お会いした際も、今の私の体調についてじっくりと話を聞いてくれました。前のめりの心配ではなく、自然な受け答えでした。鴨さんと一緒にいる時間は、気持ちが緩やかで、身体に余分な力が入ることはありませんでした。

ガンという病気や身体に起こる不調、家族の死について
鴨さんと一緒にいる時間は、穏やかに向き合うことができました。

雨が降っている。

ハル

夜が明ける頃から音もなく静かに降り出した雨は家々の屋根や壁や通りのアスファルトに、庭先の花々にも等しく降り注いでしっとりと包んでいる。通勤や通学の慌ただしい時間が過ぎて朝食の皿を洗い終わった私は飲み残しの冷めたコーヒーを飲みながら、窓の外を見渡す。今日は誰の姿も見えない。部屋の中にも湿った空気が漂っていてこんな日は、いつもよりゆっくりと時間が流れる。

「高橋さん あなたの予後はおそらく2年か3年ぐらいです。」

予後ってどんな意味だっけ？ 月に一度、近くの総合病院で、主治医の診察を受けている。

医者は、時々変わった言葉を使うから、なんだかピンと来ないことが多い。

予後... ああ余命のことか。

「でもね 先生、私すごく元気なんです。食欲もあるし、やる気もあるし癌なんて治っちゃったみたいな気がするんです」

なるべく笑顔でなるべく朗らかに今の自分の気持ちを言ってみた。できれば目の前の、私よりずいぶん若い白衣の女性にも賛同して欲しいと思いながら。

彼女はまっすぐに私を見ている。ぴくりとも笑わない。一度目を伏せてもう一度私を見る。

この目は なんていう目だっけ？

憐んでいるっていうのかな、可哀想って思ってる？今、あなたはどんな感情で私を見ているの？「治りません。それに、私が予後は2、3年と話してから、もう1年が経とうとしていますよ。何かやりたいことがあるのなら、早くやり始めた方がいいです」私から目を離さずに言った。そして、もう一度デスクのパソコンの画面を見て「しかし今のところは治療の経過が順調です。」とも言った。今は嵐の前の凧のようなものなのだろうか。「次の正月は、こんなふうには元気でしょう。でも来年の正月には高橋さんが元気だという保証はできません」主治医は診察室を出ようとする私に、言い忘れたお土産の言葉を投げかけた。

雨は、薄雲った天空から、絶え間なく溢れてくる。公園の滑り台に、ベンチに、ブランコにも満遍なく滴り続けている。じっとりと蒸し暑く時間が止まっているようだ。

「やりたいことって言われてもなあ。」改めて、自分にはやりたいことなど思いつかないのだとがっかりする。新しい服を買ったり、旅行に行ったり、映画を見たり、そんなことではない。何か心が躍る様な出来事に奔走したい。

少し前までは、いつもそんなことが頭にいっぱいあって時間が足りなかったのに今はどうだろう。気力はあるのにただ薄ぼんやりと考えがまとまらない。私らしくないと思う。いや私は元々こんな人だったのだろう。

病気じゃなかった頃に描いていた夢が色褪せて見える。

編集後記 さくら(かえる) 凧ちゃんは、毎回原稿下さっています。ハルさんは、今回の続編があるとか？次回も楽しみにしています。すみ子さんも待ってるよ～。

編集：岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 山本ひろみ

gantetu_sakura@yahoo.co.jp <https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来